

農作物技術情報 第4号の要約

平成29年 6月29日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況：6月23日時点で水稲の生育は平年より4～5日程度遅れており、葉色は平年よりも淡い。</p> <p>低温対策：今後の予報に留意し、低温が予想される場合に深水管理できるように準備する。</p> <p>技術対策</p> <p>○圃場ごとの生育差が大きいようなのでしっかりと観察すること。目標茎数（20～30本/株程度）を確保した圃場では、速やかに中干しを行う。</p> <p>○圃場をよく観察して、葉いもち発生に注意。発生を確認したら、直ちに茎葉散布を実施する。</p> <p>○直播栽培は、移植より生育量が小さくても茎数過剰になりがちなので、目標茎数に到達したら直ちに中干しを行う。</p>
畑作物	<p>生育状況：小麦の成熟期は平年並。収穫作業は6月下旬から始まっている。大豆の播種作業は平年並となった。出芽状況は良好で、初期生育は順調である。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦：子実水分をこまめに確認し、収穫が可能な場合は、速やかに刈取りを実施する。</p> <p>大豆：圃場内に滞水しないよう、排水対策を確認する。中耕は土壌処理剤の効果がなくなり、雑草が発生し始めてから実施する。</p>
野菜	<p>生育状況：6月上旬の低温と日照不足による生育停滞はその後の好天により回復に向かっている。一般的にアブラムシ類やアザミウマ類等の害虫の発生が多く、葉菜類ではべと病の発生が多く見られる。</p> <p>技術対策</p> <p>全般：圃場の排水対策を再確認するとともに、降雨後は天候回復後に殺菌剤の予防散布を行う。</p> <p>施設果菜類：適切な灌水、追肥と着果調整により生育のバランスを保ち、こまめな換気によりハウス内の温度・湿度管理を適切に行う。灰色かび病やアザミウマ等の防除対策を徹底する。</p> <p>露地きゅうり：収穫量に応じた追肥により草勢を維持し、斑点性病害を主体とした予防対策を徹底する。</p> <p>雨よけほうれんそう：天候急変に対するハウス内の温度・湿度や圃場水分管理を適切に行う。べと病やコナダニ類、アブラムシ類等病害虫の防除対策を徹底する。</p> <p>露地葉菜類：コナガ、ヨトウガ、アザミウマ類等害虫の適期防除を行う。腐敗性病害等の対策を徹底する。</p>
花き	<p>生育状況：りんどうの生育はほぼ平年並に推移している。小ぎくは順調に生育しているが、白さび病等の発生が見られるところがある。病害虫の目立った被害はいまのところ見られない。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう：葉枯病、リンドウホソハマキ、ハダニ類など病害虫の防除を適期に行う。また、圃場の適切な水分管理に努める。</p> <p>小ぎく：白さび病、アザミウマ類、ハダニ類など病害虫防除の徹底を図る。事前に排水対策を講じ、湿害を回避するほか、圃場が乾燥する場合は早めに灌水する。</p>
果樹	<p>生育状況：りんごの果実肥大はほぼ平年並、ぶどうの開花は平年よりやや早め。</p> <p>技術対策</p> <p>りんご：県内全域で結実率が低い園地もあるので、仕上げ摘果は慎重に果実を見定めて行い、また隔年結果防止のため早期適正着果に努める。</p> <p>ぶどう：結実を確認のうえ、状況に応じた適切な摘房、摘粒を進める。</p>
畜産	<p>飼料作物：チモシー一番草刈取り後は忘れずに施肥を行う。二番草は適期に刈取り、刈取高さが低くなりすぎないようにする。飼料用トウモロコシのクマ食害対策の準備を始める。</p> <p>暑熱対策：嗜好性の良い粗飼料、夜間の粗飼料給与など、暑熱の影響の緩和に努める。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全：事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成29年7月27日(木)発行の予定です